研磨剤ライムＬ・成分表、安全シート

柳　瀬　株　式　会　社
兵庫県丹波市山南町谷川 1385
TEL ： ０７９５－７７－２１５１
作成日：2008 年 12 月 25 日
変更日：2016 年 10 月 14 日
整理番号:ＭＳＤＳ－Ｚ１０１

バフ研磨剤　ＹＳＤ－Ｌ

物質の特定	単一製品・混合物の区分　：　混合物	
	化学名	酸化アルミニウム（アルミニウムオキサイド） モノカルボン酸（脂肪酸）
	成　　分	含有量（%）
	酸化アルミニウム	７５．７％
	動物性油脂	１９．８％
	植物性油脂	１．６％
	鉱物性油脂	１．５％
	緑色顔料	１．４％
	化学式又は構造式	$\alpha-AL_2O_3$　・ $CH_3(CH_2)nCH_2COOH$
	官報公示整理番号 （化審法・安衛法）	酸化アルミニウム　１－２３ モノカルボン酸　２－６０８
	ＣＡＳ番号	酸化アルミニウム　No.1344-28-1 モノカルボン酸　No.544-63-8　57-10-3　57-11-4
	化学物質管理促進法 （ＰＲＴＲ法）	第一種指定化学物質：該当しない 第二種指定化学物質：該当しない
	国連分類及び国連番号	分類基準に該当しない

危険・有害性の分類	分類の名称　：　分類基準に該当しない。 危険性　：　消防法上、可燃性固体類に該当する物質を 22.9%含有する。 有害性　：　酸化アルミニウムについては、米国ＯＳＨＡ、ＡＣＧＩＨで は物質的刺激性を有する他の化合物と同様の許容濃度（ＴＬＶ）を設定している。モノカルボン酸については、天然油脂類であるので有害性なしと判断される物質である。 環境影響　：　酸化アルミニウムについては微粒子ゆえ、排水に多量混入すると水質汚濁の可能性あり。モノカルボン酸については分解性良好と判断される物質である。
応急処置	目に入った場合 目をこすったりしない。柔らかい布または紙で異物を取り除き、その後清浄な水で充分（最低１５分間）洗眼し、必要な場合は医師の診断を受ける。 皮膚に付いた場合 汚染部位を石鹸で洗う。 吸入した場合 加熱使用時に蒸気を吸入した場合は、新鮮な空気の場所に移し、必要な場合は医師の診断を受ける。 飲み込んだ場合 口の中をすすぐ。大量の場合は吐き出させ、必要な場合は医師の診断を受ける。
火災時の処置	消火方法 風上から消火剤を火元へ放射する。 消火剤 粉末・炭酸ガス・泡・砂・ハロゲン化物など。

暴露防止借置	管理濃度 　酸化アルミニウムについて　設定なし 　モノカルボン酸について　該当せず 許容濃度 　酸化アルミニウムについて 　ＡＣＧＩＨ　米国産業衛生監督官会議勧告（1992 年度版） 　ＴＬＶ－ＴＷＡ　１０ｍｇ／m^3 　モノカルボン酸について　該当せず 　注）ＴＬＶ－ＴＷＡ：ＡＣＧＩＨの勧告制限値である制限閾値 　ＴＷＡ：時間加重平均暴露濃度 設備対策 　粉塵の発生がある時、又は加熱使用時には作業場の空気を汚染しないように局所排気装置、密閉化、又は全体換気を適正に行うことが必要である。 保護具 　通常の作業では不要であるが、必要な場合は次のものの着用が好ましい。 　呼吸用保護具：簡易防塵マスク・布マスク 　保 護　眼 鏡：ゴーグル型が好ましい 　保 護　手 袋：ゴム手袋・軍手 　保　護　衣：ゴム前掛・布前掛
物理／化学的性質	外観等　：　草色台形 沸点／範囲　：　180～230℃ 融点／範囲　：　57.0～59.0℃ 水溶性　：　水に不溶、有機溶媒に可溶 比重　：　1.92
危険性情報	引火点　：　203℃ 可燃性　：　天然油脂 22.9％含有につき可燃性。消防法 可燃性固体類 （9450cal／g） 発火性　：　なし 自己反応性　：　なし 粉塵爆発性　：　なし 安定性・反応性　：　苛性ソーダ・苛性カリ等のアルカリ類と反応して塩を精製するが、危険性はない。

取り扱い及び 保管上の注意	取り扱い 炎･火花もしくは高温体との接近を避ける。 労働安全衛生法第５７７条にあるように、法は粉塵を発散する作業場を有害な作業場と認識し、粉塵の発生抑制のための作業の方法または機械の改善等必要な措置を講じることを事業者に原則的に義務付けている。 「粉塵障害防止規則」により屋内作業場において酸化クロムを取り扱う作業のうち、同規則に定める粉塵作業については、当該粉塵にさらされる作業者の健康障害を防止するため、設備、作業工程または作業の方法の改善、作業環境の設備等必要な措置を講ずるよう努めなければならない。 保　管 火気・熱源より遠ざけるとともに直射日光を避けて保管する。 水漏れ、破損しないように注意する。
漏出時の措置	少量の場合：火気がある場合は速やかに取り除き、引火を防ぐ。 ウエスでふき取る、又は掃き集めて回収する 多量の場合：溶解時は土砂などで流出拡大防止を図り、冷却・固化後拭き集めて回収する
有害性情報	皮膚腐食性：なし 刺激性（皮膚・眼）：皮膚刺激性　なし 眼刺激性　温和（ｵｸﾀﾃﾞｶﾝ酸ﾗﾋﾞｯﾄ75mg 投与） 急性毒性(50％致死量等を含む):酸化アルミニウム＞5000mg／Kg(oral･rat) モノカルボン酸 LD50　23mg／kg （ｵｸﾀﾃﾞｶﾝ酸ﾏｳｽ腹腔内投与） 亜急性毒性：データなし 慢性毒性　：データなし がん原性　：酸化アルミニウムについてはＯＳＨＡ、ＮＴＰ、ＩＡＲＣ等の発癌 性物質リストに記載例なし。 変異原性（微生物、染色体異常）：酸化アルミニウムについてはエームズ試験で 変異を示さずとの文献記載あり。 生殖毒性　：データなし 催奇形性　：データなし その他　　：水と反応して有害なガスを発生する等もなく、通常の取り扱いで 有害性はない。
環境影響情報	分解性　：　データなし 蓄積性　：　データなし 魚毒性　：　データなし その他　：　なし

廃棄上の注意	取扱い及び保管上の注意の項の記載によるほか、一般的な注意事項による。焼却処理は焼却炉で少量ずつ焼却する。本品は焼却すると、一酸化炭素・二酸化炭素（炭酸ガス）・炭化水素を発生する。 酸化アルミニウムそのものの廃棄は、通常の埋立処分で可。 空容器に廃棄するときは内容物を完全に除去した後に処分する。本品に関する排水は活性汚泥等で処理できる。
輸送上の注意	取扱い及び保管上の注意の項の記載によるほか、一般的な注意事項による。使用容器はダンボール箱等を使用する。輸送および運搬は輸送中にお互いに衝突して破損する事のないように、常にしっかり固定した状態で行う。容器は水漏れ・破損・投げたりしないように注意する。 消防法可燃性固体類に該当するため火気厳禁とする。
適用法令	「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に基づく既存化学物質名簿官報公示整理番号と名称 （海外：ＴＳＣＡ（米国）、ＥＩＮＥＣＳ（ＥＣ）etc） モノカルボン酸「消防法」火災予防条例：指定可燃物 可燃性固体類（指定数量 3,000Kg） 「粉塵障害防止規則」（昭和 63.9.1 労告第 79 条） （労働安全衛生法第 65 条の 2　第 2 項　委任省令） 「作業環境評価基準」（昭和 63.9.1 労告第 79 条） （労働安全衛生法第 65 条の 2　第 2 項　委任省令）別表（第 2 上関係） 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び慣例法令の最終処分関係条項 ・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」　第 12 条 1 項 ・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」第 6 条第 1 号ハ ・一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係わる技術上の 基準を定める命令」昭和 52.3.14　総・厚令第 1 号
その他	記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。 また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

構成純物質のＧＨＳ分類

○印が該当する物質	○
	酸化アルミニウム

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発熱性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	区分外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分外
生殖毒性	区分できない
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分３（気道刺激性）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分１（吸入：肺）
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	呼吸器への刺激のおそれ 長期又は反復ばく露吸入による肺の障害